「修士論文執筆を振り返って」

社会福祉学専攻　早坂　宗一（平成 27 年度修了）

通信制大学院は居住している地域を問わず、職場や家庭を離れることなく、自ら計画を立てて学び、研究を進め、修士論文を書き上げていくという学びのスタイルが特徴です。

皆様は、修了した人はどのようにして論文を書いていったのであろうかということに関心をお持ちなのではないかと思います。字数制限もありますので以下の４点について記し、これから修士論文の執筆に取り組まれます皆様方の参考にしていただければと存じます。

〈図書館を活用するメリット〉

私はシルバー人材センター（以下、「センター」という。）における高齢者の就労意欲をテーマに論文を書きましたが、先行研究論文が少ないように感じて CINII などでの検索はもちろん、大学の図書館や県、市、町の図書館に通い資料の収集に努めました。私の場合、役立ったのは図書館でした。図書館を活用するメリットはたくさんあります。求めている文献を探すにはどうすれば良いか。どんなジャンルの本ならば執筆に役立つのか。図書館に行けば、係りの方に相談したり、文献探しを手伝ってもらったりすることができます。さらに、他大学に所蔵されている論文の複写も依頼できます。何気なく手にした本から研究のヒントを掴んだり、論文を書き進めるきっかけを得たりもします。当てもなく書棚を見回っている時に執筆に役立つ本を見つけ、小躍りしたくなったほどです。大学の図書館に通うことが難しい人でも、近隣の図書館は積極的に利用すべきです。

〈さまざまな資料を活用する〉

論文を書く時の資料は、「文献」と言われているものに限らないことを頭に入れておくことが大切です。さまざまな媒体に、執筆に役立つ情報が掲載されているからです。例えば新聞が挙げられます。記事を丹念に読むことで執筆に役立つヒントを得ることができます。実際、私は新聞記事を基に相当数のページを書くことができました。

資料は頂戴したこともありました。私は、頂ける資料があれば頂戴したい旨を調査依頼先のセンター職員に事前に話しておいて、さまざまな資料を入手することができました。そして、頂戴した小冊子やパンフレットを丹念に読んで利用できる箇所を見つけ、論文に

反映させるようにしました。なお、集めた資料は論文構成や章立てに合わせてタイトルを付けてダンボール箱などに保管しておくと、紛失が防げ、執筆する時に直ぐに取り出せて便利です（この方法は私の指導教員から教わりました）。

〈私の調査スタイル〉

当初はセンターの会員に聞き取りを行おうと考えていましたが、センターの職員から、会員への個別調査は個人情報保護の観点から控えて欲しい旨の要請を受けました。やむを得ず調査方法を変更し職員に聞き取りを行うことにしましたが、聞き取りは了承してもらえても、録音は断られてしまいました。職員の話が上部団体に刺激を与える内容である場合、録音されて論文に書かれたら、補助金が削減されるのではないかという心配があったようです。予め、言いたくないことは言わなくても良いことや、書かれて困ることは書かない旨を説明したにも関わらず、録音の同意は得られませんでした。そのため、聞き取り内容を書き取っていくことにしましたが、これが奏功しました。録音される心配がなくなった職員から、センターの理念と会員の入会理由との間にギャップがあることを聞き出すことができ、会員の入会理由と就労意欲との関係を明らかにすることができたからです。この方法は聞き取り先すべてで有効でした。

こうして、調査前に考えていた仮説が証明され、論文を書き進めていくことができましたが、良いことだけではありませんでした。記憶が薄れないうちに内容をまとめなくてはならず、一回の聞き取りで徹夜状態が続くことが何度もありました。

〈時間をかけて納得いく内容の論文に〉

何より重要なことは可能な限り時間を掛けることです。先行研究を始め資料の読み込み、執筆・推敲など、すべては「どれだけ時間をかけたか」と言っても過言ではないでしょう。しかし、「言うは易く行うは難し」です。時間確保とモチベーション維持が課題になります。

私はパソコンで数行でも書くことを毎日のルーティンにしました。さらに、土日のいずれかを「論文執筆の日」としてモチベーションの維持に努めました。「継続は力」です。諦めたり投げ出したりしなければ、論文は必ず完成します。入学を許可された時の「熱い思い」を忘れず、納得のいく内容に仕上げたいものです。